

2023 年度日本海洋学会春季評議員会議事録

日時: 2023 年 5 月 21 日 (日) 17:30~19:00

場所: : 幕張メッセ国際会議場 103 号室 および Zoom を利用したハイブリッド開催

出席者: 江淵会長、原田副会長、相木、青木、安藤、石井、石坂、市川、伊藤、岩本、上野、植原、梅澤、大島、岡(顕)、岡(英)、小川、乙坂、小埜、小畑、郭、川合(美)、川合(義)、神田、北出、瀬瀬、小松、根田、齊藤、須賀、杉本、鈴木、宗林、高橋、張、津田、角皆、東塚、中村、野口、野中、羽角、林、日比谷、広瀬、升本、道田、安田(一)、安田(珠)、安中、吉川 各評議員(51 名)

大林幹事、久保川編集委員長、土井幹事、中野(英)幹事、長谷川幹事、近藤研究会会長、多田研究会会長、藤井選考委員長(前)代理、中野(俊)支部長、濱崎選考委員長(前)、福田研究会会長、毎日学術フォーラム(平坂、米岡)

委任状: 磯辺、植松、河宮、武田、西岡、見延、森本 各評議員(7 名)

開会に先立ち、評議員会細則第 3 条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

1. 会長挨拶(江淵会長)

評議員会開催に先立ち、江淵会長より挨拶があった。日比谷紀之会員が IUGG Elected フェローに選出された件、中村尚会員と西岡純会員が令和 5 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞した件、第 5 回西田賞を田村岳史会員と山下洋平会員が受賞する件が報告され、祝意が示された。法人化についての目標について述べられた。2023 年度の秋季大会は京都大学の会員が主催で、京都大学にて対面で開催される予定であることが述べられた。ようやく新型コロナ感染に関する制限が弱まり、対面で大会参加が可能になった一方でオンライン参加の便利さも選択肢として残して行くなど今後の方向性についてもいろいろと考える必要について述べられた。会員数減少傾向に関して若い方の参加を促していきたいという意向が述べられた。

2. 審議事項

1) 受賞記念講演座長について(岡(顕)幹事)

受賞記念講演座長について提案され、承認された。

2) 賞選考委員委嘱について(江淵会長)

三賞選考委員について 1 名の追加委嘱が提案され、承認された。

論文賞選考委員について 2 名の追加委嘱が提案され、承認された。

3) 法人化について(江淵会長)

法人化のスケジュール案が提案され、承認された。

定款案、細則案について提示され、6月末までコメントを募集することが述べられた。

- 4) 2022 年度事業報告並びに決算報告について (岡(顕)幹事・野口幹事)
2022 年度事業ならびに決算について報告され、学会開催期間等の微修正の後、承認された。
- 5) 2022 年度監査報告について (日比谷監査)
2022 年度監査報告について述べられ、承認された。
- 6) 2023 年度事業計画並びに予算案について (岡(顕)幹事・野口幹事)
2023 年度事業計画並びに予算案について提案され、承認された。若手研究者渡航援助数については応募数を見て検討することとされた。
- 7) 2023 年度通常総会議事次第案について (岡(顕)幹事)
2023 年度通常総会議事次第について提案され、承認された。
- 8) 会則の改正について (岡(顕)幹事)
学生会員に関する会則の改正(学生会員の定義及び会費の変更)、細則の改正(岡田賞受賞の年齢緩和に伴う変更)について提案され、承認された。
- 9) その他
環境問題研究会(福田委員長)
会長の再任及び研究会の英文名称の会則への明記について提案され、承認された。
環境科学賞の名称について(鈴木評議員)
環境科学賞の名称変更について幹事会に検討依頼があった。

3. 報告事項

1) 会務報告

庶務 (岡(顕)幹事)

2022 年 4 月から 2023 年 3 月の会員の異動状況について報告された。

編集

①JO (齊藤編集委員長)

JO Vol.77(1)から 79(3)までの発行状況について報告された。2017 年度から 2022 年 3 月までの投稿・受理状況について報告された。特別セクションの編集状況について報告された。

編集委員のジェンダーバランスの改善検討、および特集号、レビュー論文の依頼をすすめたいという意向について報告された。

②海の研究 (久保川編集委員長)

2022 年度の実績及び 2023 年度の報告について報告された。海の研究へ投稿しやすくなる取り組みをすすめる意向について報告された。

③JOS ニュースレター (岩本編集委員長)

2022 年度の発行実績、2023 年度の発行予定について報告された。JOS の国際標準

逐次刊行物番号(ISSN)へ申請していると報告された。

研究発表（土井幹事）

2022年度の秋季大会は初めてのハイブリッド形式にて開催されたことが報告された。

2023年度の春季大会は JpGU2023 の中でハイブリッド形式にて開催されることが報告された。

2023年度の秋季大会は京都大学会員により、京都大学を開催地として完全対面形式で実施されることが報告された。

賞選考

学会賞・岡田賞・宇田賞（江淵前委員長）

選考過程および選考結果について報告された。

日高論文賞 奨励論文賞（濱崎前委員長）

選考過程および選考結果について報告された。

環境科学賞（藤井前委員長代理）

選考過程および選考結果について報告された。

吉田賞（升本前委員長）

選考過程および選考結果について報告された。

選挙管理（中野(英)幹事）

役員投票、各賞可否投票および賞選考委員選挙結果について報告された。また、役員投票はオンラインで行われたことが報告された。

広報委員会（川合委員長）

2022年度の活動について報告された。新しい取り組みとして Web サイトに新コンテンツ：海について学ぶ Web ポスター「わたしたちの生活を支える海」を追加、JpGU ブースでの海のトリビアおみくじについて報告された。2023年度の活動予定について報告された。新しい取り組みとして、JpGU ブースにて海の動画およびお茶の提供について報告された。

海洋環境委員会（野口委員長）

2023年度の新体制および、「青い海助成」事業に一件応募があり採択されたことが報告された。

海洋観測ガイドライン編集委員会（長谷川委員長）

2022年度は和文第5版、英文第5版の収集・編集したことが報告された。

2023年度は和文第5版の出版、改訂・追加事項の検討の予定であることが報告された。

西南支部（中野俊也支部長）

2022年度はニュースレター52号の発行、ホームページの更新、維持管理、支部会連絡会等を実施したことが報告された。

海洋環境問題研究会（福田研究会会長）

海洋環境問題研究会の総会が5月17日開催され、福田会長の再任を推薦されたことが

報告された。

秋季大会で50周年日記念として本研究会主催のシンポジウムを開催予定であることが報告された。

沿岸海洋研究会（多田研究会会長）

2023年度春季周期沿岸海洋研究会を4月19日オンラインにより実施したことが報告された。

2023年度日本海洋学会秋季大会期間中に沿岸海洋研究会シンポジウムとして「閉鎖性海域における貧酸素水塊の現状と未来一長期変化と物質循環との関わり」を開催予定等が報告された。

海洋生物学研究会（近藤研究会会長）

「海洋生物シンポジウム2023」を2023年3月20日にハイブリッドにて開催したことが報告された。なお、発表者のうち8名はこれを機に海洋学会へ新規入会したと報告された。また同日運営委員会を開催したことが報告された。

教育問題研究会（川合研究会会長）

2022年度は、海のサイエンスカフェ、女子中高生夏の学校2022、JpGU教員免許状更新講習への講師派遣、海洋教育の普及・実践のためのネットワーク作り、サイエンスアゴラ2022への出典、「海の出前授業」講師派遣事業、大学施設を利用した海洋教育の実践等の活動を実施したことが報告された。

関連学協会の連携の強化について報告された。

2023年度の活動計画が報告された。

ブレイクスルー研究会（岡(顕)幹事）

海洋学会ブレイクスルー研究会の解散の発議書が出され、2023年3月31日をもって解散することが幹事会で承認されたことが報告された。

研究に関する将来構想WG（岡(英)幹事）

パート2として海に興味を持つ一般向けの記事作成等の活動を行う予定であることが報告された。

リクルート戦略WG（渡部幹事）

Google formを通じた進路についての問い合わせに合計22件に対応したことが報告された。

2) 学会関連報告

学会動向（原田副会長）

学界関連の動向について報告された。詳細についてはJOSニュースレターに掲載される。

科学全分野対象の賞に学生や若手研究者の推薦を積極的に行っていくと報告された。

第4次海洋基本計画が4月28日に閣議決定されたと報告された。

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想の応募が始まったことが報告さ

れた。

「海洋」をテーマにした、CREST, さきがけの課題が立ち上がったことが報告された。
水産・海洋科学研究連絡協議会（江淵会長）

6月16日に協議会が開催予定との報告があった。

以上